

# 何が原因で何が

三遊のクニササと色ませはひめ23

# たん新聞

10.8. No159  
発行 市岡日出夫  
責任 菅貴  
0883-88-5292

三人寄ればバチニコの詠が中心だった祖谷の中を、最近では「めくいのうや、たまらんわいれ」で詠がはじまる。酷暑、猛暑、熱帯夜という言葉が日常になる。ついに感のある連日の暑さ、便利さでは都会に及びませんが、不便だから、この季節は涼をとるには最高です。ちよと木影に入れば、ひんやり。山の上では風が心地よい。夜ともなれば、毛布一枚必要なくらいです。そんな祖谷の会話の中心が、ちよと変えて来まして「カキマメの中へ、猿が来て、どちどちこ」

# 起きている山のなま

## 山のなま

とか、サツマイモもトウモロコシも

と猿のやつが獲っていきよる、はがいたろこいこまらんわいれ。と猿や鹿による農作物の被害。梨やサクランボが人間の口に入るまで盗まれたとニエースになるが、小規模農業はニエースにもなりません。山に入れば、植物の緑がなくなり、裸地にひびく地表も多く見られるようになってくる。

どうも、こちらは鹿が増えている。山の甲で、鹿の集団を見たいという登山者も増えている。間違ひなく寅行犯は、鹿や猿猪どくようか、どうしてここの山にも増え、危険ひ人里へも平気で出現するようになってくるのだろうか。

彼ら動物も美味い作物があれば、そちらに目は向く。苦勞せぬ、食料が手に入れば人里にでも出向くことになる。遠くから見れば緑に囲まれ、何の問題もないようですが、一歩足を踏み込めば大きく変化し、不自然な状況、何が原因なのか、そこそこ対策はあるのか



# 元氣印「赤旗」山富士山へ

元氣印の赤旗「祖谷村」の旗が、今治市の山本さん夫婦と共に富士山まで、元氣のめとを証明しました。

法彩祖谷村、独立間村と同時には村民とならぬ、祖谷の山々ばかりでなく、日本各地、いよ海外までも出かけている山本さん夫婦、様々な場面でご登場いただきありがとうございます。今月は「富士山」から、夫婦ともに病弱と闘いながらの山歩き、自分らのペース楽しくみながらの登山。いつも祖谷村の旗をバックの中へ、そこそこの景色のいい所、写真撮って送って頂きます。元氣をありがとうございます。

